幹事挨拶

◇第２期幹事として

名古屋工業大学　ｾﾗﾐｯｸｽ研究施設
虎谷　秀穂

第１期会計幹事として役目を務めさせていただきましたが、今年度からも第２期会計幹事を続いて引き受けることになりました。会計として、予算・決算とお金の出し入れに気を使うことは勿論ですが、一番のモットーは『各サブグループ（SG）に対して出来るだけ公平』にというものです。

利用者懇談会の一番大きな予算項目は、何と言っても各SGの活動費、即ち各会員に支給される会合旅費です。これはビームライン建設時期におけるSG活動を支援するという予算の趣旨にも合致することです。４本の共同利用ビームラインに対する結論が出た平成６年度は、提案者の提出などがあった５年度に比べて会合の開催回数が多少減少致しました。しかし、その分、拡大世話人会などが開催されたことをご存じと思います。一つのSG当たり、年間使用できる旅費は、２０万とか、３０万とか、いずれにしろ、年間サブグループ会合旅費の総額をSGの数で割った額が、各SGの世話人に『今年はこれくらいでやって下さい』と言って示されるわけです。しかし、悪平等を課しているわけではありません。予算のあるかぎり、またとてつもなくその枠をはみ出さないかぎり、旅費は支給されています。幸い、どのSGも今までに枠をはみ出したからと言って会合の開催にストップをかけられたことはありませんでした。その結果、毎年各SGによってその使用額にかなりの凹凸が生じています。申請された会合に対する予算要求に、利用幹事と会計幹事がＯＫを出さなかったのは、学会に際してのSG会合の開催に対してのみでした。これは、今後も受理できません。

さて、SG世話人の方々にお願いしたいことは、予算の使用可能項目、およびその申請手続きをよくお読みいただきたいと言うことです。しかし、項目外であっても皆さん方から要望を寄せていただければ、次の年度位からは使用項目が増えていっていると思います。その点、今年も多少項目が増える予定ですのでご期待下さい。年度単位の改善は遅いとおっしゃることは分かりますが、使用されるお金には会計検査もあり、好き勝手な項目に使用できるわけではありません。この点をご了承下さい。一つのSGが提案してきたことを年度の途中で取り入れていくことは、柔軟性があるとも言えますが、一方で、SG間の公平さを欠くことにもなります。『スタートラインは同じで、その上で積極的に活動なさるSGに対しては、どうぞ』というわけです。この考えはSPring-8利用者懇談会執行部全体のものと考えています。

今年度から会費の納入に対して銀行口座からの引落としを実施しております。この手続き採用に是非ご協力下さい。

◇二期目の庶務幹事をお引き受けして

岡山大学　理学部
前田　裕宣

このたび二期目の幹事会で庶務幹事をお引き受けすることになりました岡山大学の前田でございます。早速、編集幹事から第２期幹事としての抱負を書くよう原稿の依頼が参りましたので、今の心境を述べさせて頂きます。

私は、Ｘ線の構造解析からEXAFSを始め、PFは1983年の春から利用させて頂いております。高良先生のお話によると、既に１０年前の1973年にPF懇談会の前身である世話人会が結成され、シンクロトロン光源の実現に向けて努力されていたとの事です。我々関西XAFS研究会（PFの一般公開による共同利用実験の開始と同じ時期の春に結成）の多くのメンバーはPF施設の利用者としてその恩恵を受けてまいりました。その後、関西にも放射光施設をと言う計画（関西6GeV計画）を知り、その時期には建設に協力したいと思っていました。次世代大型Ｘ線光源研究会と科学技術庁のご尽力でSPring-8計画がスタートし今日を迎えています。

関西XAFS研究会のメンバーは地元関西にできる第３世代の大型放射光源を歓迎し、出来る限りの協力をと考えておりました。丁度その時、SPring-8利用者懇談会で庶務幹事をとのお話がありました。自分の能力を考えると断るべきだと思いましたが、お役に立てればと思いお引き受けした次第です。特に、私のおります岡山大学は姫工大・理学部を別にするとSPring-8に最も近く自動車で１時間のところに位置しています。お隣りの県とはいえ地元意識で頑張ります。どうぞ宜しくお願い致します。

最後に、SPring-8利用者懇談会が施設者側と利用者とのインターフェイスとしてその役割を果たし両者の間に親密な関係が築かれ、さらにSPring-8における会員の研究活動が進展することをお祈りいたします。

◇第二期幹事として

岡山大学　理学部
圓山　　裕

この度、「光彩」の編集副幹事をする事になりました。力不足かつ経験不足ですが、頑張って役目を果たしたいと思っております。皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

ここでは、この数ヶ月の間にあった私事と、その時々の感想等を書かせて戴きます。

５月１９日に菊田会長から「編集副幹事を．．」と仰せ付けられました。丁度その日に今年度第１次補正予算が成立し、６本のビームラインの建設が一斉に前倒し実施される事になり、世話人が急きょ理研に召集されたのが、６月１日でした。共同利用ビームラインの建設に向けて大きな進展が見られた訳です。幹事をお引き受けする事になった時、２月上旬に持った強い印象が蘇ってきました。それは、阪神大震災のために不通となった新幹線に代えて、岡山から東京まで飛行機で出かけた時の事です。岡山空港を飛び立って５分余りで相生の上空に差し掛かり、左方眼下に銀色に輝くドーナツ状のSPring-8シンクロトロン棟が容易に認められました。樹木の緑と建設現場の褐色に囲まれた人工構造物に、何か神々しい物を見た時の様な感動を覚えました。自然の大きさと較べるとこの人工物は如何にも小さい、しかし、その自然の中で凛とした姿には偉大とも感じた訳です。このSPring-8と今まで以上に深く関わることになると思うと、身の引き締まる思いが有りました。しかし、こんな感慨に浸っているのも束の間、事務局からは次々とFAX や電話が入ってくる様になりました。

幹事といっても未だ何も仕事らしい事はしていません。編集幹事の難波先生から指図を戴きながら、「光彩」７号の編集作業に関わり始めたところです。今後の方針等も幹事会で議論されると思いますが、補正予算によってSPring-8の完成が約２年後に迫った状況を考えますと、利用者懇談会の活動、「光彩」の役割自体も、今までとは異なったものに成って行くと思われます。第１期の幹事が築かれた路線を継承しながら、建設、利用及び研究の立場から、(1)ビームライン建設に関わる情報、(2)会員の施設利用に関する情報、(3)研究支援のための情報等を、掲載する必要があるのではないかと考えます。また、SPring-8の共同利用に関する法律は整備されましたが、共同利用研究施設として機能させるために、利用者懇談会の原研・理研・高輝度光科学研究センターとの緊密な連携の必要性が指摘されています。SPring-8利用者懇談会は利用者団体として、会員の意見を集約する役割が今まで以上に重要になってきていると思います。

創意に満ちたSPring-8の完成によって、新しい研究活動の場を創造するために、懇談会活動の発展を願わずにはおれません。私も及ばずながら微力を尽くすつもりでおります。ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

◇第二期利用幹事をお引き受けするにあたって思うこと

大阪大学　理学部
渡辺　　巌

待望の光がSPring-8から１年と少しで出てくることとなった。ずいぶんと初期の計画よりも早い。以前に、“関西に放射光施設を作ろう。それも世界最大規模のものを”、とい

う話を聞き、その運動のための研究会が何度も何度も開かれていた時には私はまるで夢物語を聞かされているがごとき印象を持っていた。最近の急速な進展の様子にはまるでキツネにつままれた思いをしている。これまで施設設立に運動された先輩諸氏や推進役を務められた方々に深く感謝したい。

ところで近頃、私はPFへ実験に行くのに、まず測定機器類を100kg近く運送会社に頼んで別送しておく。さらに試薬などと学生達を積んで自動車で筑波へ出かける。運転時間は８ないし１０時間であろうか。高速道路の状況によってはへとへとになってPFに到着する。荷物の梱包を解き、徹夜の実験を幾晩か行った後、返送のため再び梱包作業を行う。このように不規則な生活をPFで過ごし、慣れない労働の後に帰途につく。家族にも研究室にも言わずにいるが胸のうちは不吉な予感でいっぱいである。無事に大阪に戻れるだろうか。ひょっとすると今回は大事故を起こすのではないか、と。

私はこのような研究生活を２ケ月に一度位の頻度でしているが、他にも同じ様な苦労をなさっている地方の方も多いのではないか。SPring-8が運転を始めれば私達関西の者は、現在の関東の方々のPFに対するアクセス環境と同等の立場に置かれる。有難いことである。自分の実験室に近くなければやりにくい実験が思う存分できる。学生の旅費を工面する心配をしなくてよいなんて、それだけでもうれしくて涙が出る。我々が高速道路で事故を起こす前に一刻も早くSPring-8が稼働を始めて欲しい（こんなことを書くと、この原稿が遺稿となった、なんてことにならないか本気で心配している）。

でも、これはSPring-8を利用する際の関東の人達が置かれる状況である。ざまーみろとは言わない（心のどこかでは思っている．．．きっと）が、PFにおける地方の研究者の待遇とか利便への要望についての理解が深まるとは思う。SPring-8では、旅費がないから自家用車で東京から学生を連れて行く、なんてことがないように心底から祈る。

さて、SPring-8が我々研究者にとって真に有意義なものとなり世間で評価されるようになるには重要な未解決課題が山積している事を承知している。その中で私達が直接関与することになるのは、研究課題の申請・審査・採択基準、施設の設備内容、設備の維持・改良、研究支援スタッフなどをどうするかである。これらはこれから決定される。それらはこれまでの私達のPFでの経験を踏まえてよりよいものとしなければならない。ところで、制度や設備は必要とあれば後で何とでも変更できよう。一番の心配は人を得ることである。SPring-8を魅力ある職場としなければ優秀な人材を得て育てることはできまい。さらに充分な財政的支援がなければ充分な数のスタッフを配置できまい。ところがこれらについては現在の行政を見るかぎり悲観的予測しかできないのは本当に情けない。この様な状況のもとで、私達の力が真に試されるのは、（行政に待つのではなく）こちらから積極的にいかに優秀な人材をいかに多くSPring-8に投入できるかであろう。つまり私達自身が優れた研究を行なうだけでは不足であり次の世代の人達のアイデアによる新しい研究を育てなければならないと思う。微力ではあるが大学においても利用者懇談会においてもこのような観点から努力したいと考えている。